

目次	会務報告	295
	第6回観察会（静岡県下田周辺）の報告／木下靖浩・安斉唯夫	295
	第6回観察会（静岡県下田市；2007年9月15～16日）で観察された地衣類 ／原田浩・安斉唯夫・木下靖浩	295
	伊豆下田観察会参加記／横澤敏和	297

### 会務報告 Reports of the JSL Activities

#### 第6回観察会（静岡県下田周辺）の報告

Report of the 6th JSL Field Meeting at Shimoda city and vicinity, Shizuoka-ken, Japan

/ by KINOSHITA Yasuhiro & ANZAI Tadao

木下靖浩・安斉唯夫：地域活性化委員会関東

静岡県下田市において地衣学会主催第6回観察会が開催されましたので、報告いたします。

\* \* \*

開催日：2007年9月15日（土）～16日（日）

開催場所：静岡県下田市須崎恵比寿島および須原

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者：初日22名，2日目17名（いずれも講師含む）

\* \* \*

地衣学会主催の観察会は今まで主に山地で開催されていましたが、今回初めて、海岸での観察（初日）を企画したところ、大勢の参加者を得て開催することができました。

恵比寿島は一周が500mほどの小さな島で、周囲を遊歩道で巡ることができるようになっています。初日は天気の良いほどで、陽を遮るものもなかったため、暑

さにばてるほどでしたが、地元の須崎の方々への参加も得て、多種の海岸生地衣を観察することができました（図1）。恵比須島での採取は静岡県、下田市、地元漁協に届けた上で行いました。（今回も恵比寿島での採集許可



図1. 恵比須島海岸での観察風景。

を静岡県および地元漁協にからいただいでいて地衣類を採集していました。)宿は、学会員の小山内行雄氏のご尽力により、日本工業大学のご厚意で下田寮を使わせていただき、豪華な夕食と温泉を堪能することができました。夕食をすませた後の食堂で、持ち込んだ実体顕微鏡をテレビに接続し、その日の採集品や参加者が持ってきた標本を拡大映写し、原田講師による標本観察説明会を実施しました(図2)。原田さんの名解説を聞きながら、野外の観察では見られない細かな点まで確認することができました。一昨年の第4回観察会(入笠山)でも顕微鏡による観察会を実施しましたが、今回はみんなが同時に同じ標本を見ながら説明を聞くことができ、好評を得ることができました。

翌日も好天に恵まれ、須郷川沿いで地衣観察を行いました。関東大震災で山から落ちてきたという、畑の中に立つ、高さ5mほどの「震災岩」に全員で張り付いて、様々な地衣を観察し(図3)、伊豆の地衣に親しむ2日間を終えました。

最後になりましたが、須崎漁協および日本工業大学下田寮、楞沢寺(りょうたくじ)の皆様、また観察会にご参加いただいた下田市須崎地区の方々感谢您的いたします。



図2. 標本説明会の様子。



図3. 震災岩での観察風景。

## 第6回観察会(静岡県下田市; 2007年9月15~16日)で観察された地衣類

Lichens observed at the 6th JSL Field Meeting in Shimoda, Shizuoka-ken, central Japan, 15-16 September 2007 / by HARADA Hiroshi, ANZAI Tadao & KINOSHITA Yasuhiro

原田浩\*\*・安斉唯夫\*\*・木下靖浩\*\* : \*千葉県立中央博物館・\*\*地域活性化委員会関東

上述の観察会で現地において同定された地衣類のリストを示す。従って、これはあくまでも暫定的なリストである。正式なリストは、標本を検討後、Lichenology誌上等で報告する予定である。

\* \* \*

### 1. 下田市須崎恵比寿島(9月15日)

<i>Buellia stellulata</i>	ホシスミイボゴケ
<i>Caloplaca spodoplaca</i>	シロイソダイダイゴケ
<i>Caloplaca scopularis</i>	イソダイダイゴケ
<i>Dirinaria applanata</i>	コフキチリナリア
<i>Enterographa praepallens</i>	イソクチナワゴケ
<i>Lecanora</i> sp.	チャシブゴケ属(海岸生)
<i>Lepraria</i> sp.	レブラゴケ属

*Opegrapha* sp. キゴウゴケ属  
*Parmotrema tinctorum* ウメノキゴケ  
*Pyxine endochrysis* ウチキクロボシゴケ  
*Ramalina litoralis* イソカラタチゴケ  
*Ramalina siliquosa* ハマカラタチゴケ  
*Rinodina* sp. ビスケットゴケ属  
*Roccellina niponica* ヘリフトゴケ  
*Verrucaria marinomularis* ハマイボゴケ  
*Verucaria* sp. アナイボゴケ属 (黒色)  
*Xanthoparmelia* sp. キクバゴケ属

*Heterodermia obscurata* キウラゲジゲジゴケ  
*Hypotrachyna nodakensis* ノダケウメノキゴケ  
*Leptogium azureum* アオキノリ  
*L. moluccanum*  
 var. *myriophyllum* コバノアオキノリ  
*Lobaria adscripturiens*  
 f. *adscripturiens* ヤマトエビラゴケ  
*Lobaria retigera* チヂレカプトゴケモドキ  
*Myelochroa aurulenta* コナウチキウメノキゴケ  
*Myelochroa entotehiochroa* クズレウチキウメノキゴケ  
*Myelochroa leucotyliza* ヒカゲウチキウメノキゴケ  
*Myelochroa metarevolvata* コフキチヨロギウメノキゴケ  
*Ochrolechia parellula* イワニクイボゴケ  
*Pannaria conoplea* コフキハナビラゴケ  
*Parmelinopsis minarum* トゲウメノキゴケ  
*Parmelinopsis spumosa* コナヒメウメノキゴケ  
*Parmotrema mellissii* ニセマツゲゴケ  
*Parmotrema tinctorum* ウメノキゴケ  
*Phaeophyscia endococcinodes* アカハラムカデゴケ  
*Pyxine endochythyina* ウチキクロボシゴケ  
*Ramalina peruviana* コフキカラタチゴケ  
*Ramalina yasudae* イワカラタチゴケ  
*Rimelia clavulifera* マツゲゴケ  
*Stereocaulon japonicum* ヤマトキゴケ

## 2. 下田市須原 (9月16日)

*Canomaculina subtinctoria* オオチヂレマツゲゴケ  
*Cladonia chlorophaea* ジョウゴゴケ  
*Cladonia dissimilis* ニセヤグラゴケ  
*Cladonia macilenta* コアカミゴケ  
*Cladonia pleurota* アカミゴケ  
*Cladonia ramulosa* ヒメレンゲゴケ  
*Cladonia subcariosa* マキバハナゴケ  
*Coccocarpia palmicola* コナカワラゴケ  
*Collema subflaccidum* トゲカワホリゴケ  
*Dirinaria applanata* コフキチリナリア  
*Heterodermia isidiophora* トゲゲジゲジゴケ  
*Heterodermia japonica* クロアシゲジゲジゴケ

## 伊豆下田観察会参加記

My experiences at the 6th JSL Field Meeting in Shimoda, Shizuoka-ken, central Japan, 15-16 September 2007 / by YOKOSAWA Toshikazu

横澤敏和：横浜清風高等学校

日本地衣学会第6回観察会が2007年9月15日と16日の2日間にわたり静岡県下田市で開催されました。1日目は須崎半島の西端に位置する恵比須島内。そして2日目は、市内を流れる須郷川上流の楞澤寺一帯で行われました。

恵比須島は須崎半島の西端に位置し、海岸線に沿って一周500m程の遊歩道があり、散策や磯遊びの好適地となっています。風光に恵まれただけでなく、海藻研究の中心であり、研究者が一度は必ず訪れる場所になっています。戦前より筑波大学の臨海実験所が近くの鍋田に設置され、現在でも恵比須島の磯で生物学科の臨海実習が行われています。

なぜ海藻の話が出てくるのかと言うと、今回観察会に

参加させてもらった理由になります。私は神奈川県藤沢市江ノ島の海藻植生について、主に潮間帯の垂直分布を調べています。外国の文献を読むと、飛沫帯にはLichensと記されどんなものなのか、以前から興味を持っていました。そして今年になって潮間帯にも生育するLichensがある事を知り、無視しているのが不安になり勉強の必要性を感じました。ネット検索で地衣学会を知り、青空地衣教室や夏のワークショップで勉強させていただきました。海岸の地衣類を教えていただける今回の観察会は、まさに自分の望みものでした。

15日は、須崎漁業協同組合の部屋をお借りして昼食を済ませ、同行される組合の方々顔合わせをしました。遊歩道の入口から時計回りに、道の両側に着生した地衣

類を観察しながら移動してゆきます。説明して下さる講師は、千葉県立中央博物館の原田浩先生です。崖一面に見られたイソクチナワゴケの前では、「イソがつく地衣類は海岸付近に生育する事をあらわす」とか、「日陰を好むので北側の崖で見られるものである」・・・等、種の形質や生態的な特徴をわかりやすく教えていただきました。

フットワークの軽い原田先生は、遊歩道から磯に降りてアナイボゴケの仲間 *Verrucaria* を指差しました。周囲の海藻植生は、ハイテングサ、サイミなど潮間帯の中間部を代表するもので、一ヶ月の半分以上は海水の中という生育帯です。初めて見るそれらは、岩を被う無節サンゴモ類の極僅かな間隙部に、砂粒の模様ぐらいにしか見えません。教えてもらわなければルーペで覗くことはなかったと思います。ちなみに後日、江ノ島で注意してみると、アナイボゴケの仲間と思われるものを見つけ、いまさら江ノ島潮間帯の奥深さを痛感しました。

宿泊は、かけ流し温泉の大浴場を持つ日本工業大学下田寮にお世話になりました。学校の施設にもかかわらず、刺身や天ぷらなど美味しい地の肴が並べられ、豪華な懇親会になりました。懇親会をかねた食後は採集物の解説

が行われました。実体鏡の映像を大画面モニターに映し出し、参加者全員が同じ標本の、子器や粉芽、列芽などを見ることが出来ました。形質だけでなく生育状況や各地の話題などにまで広がり、遅くまで盛り上がりました。

16日は、下田市内から車で40分の須郷川上流部、楞澤寺に駐車場を借り、さらに徒歩で川沿いをあがって行きました。特に大半の時間を、畑の中にある震災岩と呼ばれる大岩で観察しました。岩は大きく四つの面に分けられ、向きや高さによって種類の分布がそれぞれ違う事が興味深かったです。それぞれの面で特徴的な種類について説明を受けました。例えば、ウメノキゴケの仲間数種類を同時に比較しながら見る事ができ、その場で同定に関するポイントや問題点を知ることが出来ました。

川沿いを戻りながら水際や石垣の地衣類も観察しながらもどって来ました。苔や地衣の美しい楞澤寺で遅めの昼食をとり、充実した雰囲気の中で解散となりました。

2日間を通して、実際にフィールドで説明を受けるなど得がたい経験をさせてもらいました。今後もこのような海岸地方の観察会を開催して下さい。世話役の方々に改めて謝意を表します。参加者の皆様ありがとうございました。

---

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 82, pp. 295-298: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 25 December 2007.

---

日本地衣学会ニュースレター 82号

発行日：2007年 12月 25日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

---

---

©2007 日本地衣学会 (© 2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。